

養護教諭と栄養教諭の連携に関する事例について

本協力者会議においては、養護教諭と栄養教諭は、「養護」、「栄養」とアプローチこそ異なれ、児童生徒等の心身の健やかな成長を担うという意味において、目的を同じくするものであることから、2つの職の資質能力の向上を一体的に検討することとした。

また、議論の取りまとめにおいても、養護教諭と栄養教諭には、実施主体として学校保健活動や食育を推進するだけでなく、全校的な推進体制の中核として、教職員間の連携をコーディネート（調整）するといった能力が共通して求められることも改めて確認された。

さらに、令和4年12月の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～」においては、教員免許更新制を発展的に解消し、『新たな教師の学びの姿』を実現する体制を構築することとされ、「各学校において行われる校内研修や授業研究など、「現場の経験」を含む学びが、同僚との学び合いなどを含む場として重要」とされている。養護教諭及び栄養教諭は、他の教諭等と異なり、各学校一人しか配置されていないことが多い中、児童生徒等の心身の健やかな成長を担うという目的を同じくする職種として養護教諭と栄養教諭がお互いの職種について理解し合い、協働して学ぶことが今後ますます期待される。

一方で、養護教諭と栄養教諭の連携については、当たり前に行われている学校もある中、特に、栄養教諭が複数校を担当している場合などにおいては、十分に連携が進んでいない実態もある。養護教諭と栄養教諭の連携に向けて、まずは、日常的な情報交換の場や対話の機会を設けることが必要である。

そこで、本資料においては、養護教諭と栄養教諭が連携するに当たってそれぞれの専門性をより生かすために、どのような役割分担が望ましいかといった観点や、今後求められる養護教諭及び栄養教諭の役割において、どのように共に資質能力を向上させていくことができるかという観点から、事例を2点紹介する。本資料も参考にしつつ、各学校において養護教諭と栄養教諭の効果的な連携に向けた話し合いを行い、目的を共有した上で連携が更に進むことが望まれる。

事例 1

養護教諭・栄養教諭の適切な役割分担により、それぞれの専門性を生かした個別指導を実施！



POINT

健康課題の改善を促すために行う個別的な相談指導(肥満・痩身、食物アレルギー)を行うにあたって、養護と栄養の両方の観点から健康課題を抱える児童を抽出し、それぞれの専門性を生かし、補完し合いながら、児童の健康改善に必要な指導を行った。

取組の背景・目的

新型コロナの感染拡大による学級閉鎖などの影響もあり生活習慣の悪化による肥満・痩身の児童の割合が増えてきていることや、食物アレルギーを持つ児童が増加傾向にあったことから、個別的な相談指導の重要性も対象となる児童の数も増加していた。

そこで、養護教諭と栄養教諭個々の対応だけでは足りず、両者が連携することはもちろんのこと、学級担任などを巻き込んだ校内体制を構築することや、個別化する健康課題に対応するために学校医等からの指導・助言を受けられる体制を作る必要があった。

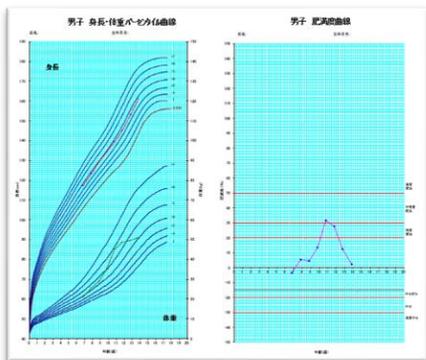
取組の様子

対象児童の抽出及び個別指導における連携

個別相談指導委員会を立ち上げ学級担任などを巻き込んだ校内体制を構築する必要があった。

養護教諭が健康診断の結果を、子供の健康管理を行う市販のプログラムに取り込み、身長・体重成長曲線と肥満度曲線データを作成した。そのデータや学校生活管理指導表などを基に、養護教諭と栄養教諭で連携して、校内で個別的な相談指導が必要な児童を抽出し、相談指導を実施した。

個別的な相談指導においては、栄養教諭が栄養摂取や食生活についての指導をしつつ、養護教諭が心のケアや生活習慣全般についての指導をするなど、それぞれの専門性を生かし、補完し合いながら、児童の健康改善に必要な指導をした。



アセスメント・個人目標の設定・栄養補給計画

アセスメント(現状把握と課題の抽出)では、聞き取りをした家庭での食事内容と学校給食の摂取状況をソフトウェアを活用して栄養計算をし、対象児童が摂取したエネルギー量、栄養素量を算出した。併せて、生活・運動についての調査を実施した。

アセスメントの結果を基に、養護教諭と栄養教諭が一緒に健康課題を抽出するとともに、対象児童の身長の伸びを推定し、体重等の個人目標を設定した。

栄養教諭は個人目標を達成するための栄養補給計画と行動計画を立て、行動計画の日々の実行状況の確認は養護教諭が行った。



養護教諭・栄養教諭の連携による成果

活用成果1



それぞれの専門性を生かした個別指導や健康教室の実施

日頃より、対象児童の体調や行動に関することは、養護教諭が見守りを行い、給食の摂取状況は栄養教諭が把握している。養護教諭と栄養教諭が協働することで、お互いの専門性の視点から、気になる児童の抽出が出来た。

また、月1回の面談前には、綿密に打ち合わせをして、生活習慣に関するアドバイスは養護教諭が行い、食事面でのアドバイスは栄養教諭が行うことで保護者や児童の理解が深まり、意欲を高めることができた。

さらに、夏休みには養護教諭と栄養教諭が連携して健康教室を開催した。

連携してデータの管理・活用をすることにより、校内及び校外への情報共有がスムーズに

養護教諭と栄養教諭が対象者ごとの個人カルテをそれぞれ作成するのではなく、共同で作成・データ管理することで、個別相談指導委員会において分かりやすい資料提示や提案が可能となり、協議がしやすくなった。

また、個人カルテ上で成長曲線や肥満度曲線、栄養補給計画をまとめて見られるようになったことで、児童や保護者、児童の支援にあたる関係者(主治医や主治医の病院の管理栄養士等)にも情報共有がしやすくなった。

活用成果2



今後の展開に対する期待(協力者会議)

- 個別相談指導委員会などの組織を設けることで、個別的な相談指導を行う養護教諭と栄養教諭の連携が深まり、より多くの児童の健康状態を改善できると考えられる。
- ICTの活用が進み、更にデータ管理の効率化やデータの見える化が進めば、養護教諭・栄養教諭間の連携も加速することが期待される。
- また、各学校の「食に関する指導の全体計画」や「学校保健計画」の作成に当たっては、栄養教諭・養護教諭が、それぞれ給食(食育)主任や保健主事、学級担任、各教科の教諭等と連携しつつも、それぞれの計画を照らし合わせて、お互いに連携できる指導場面をあらかじめ共有しておくことが求められる。
- 関係機関との連携に当たっても、養護教諭はスクールカウンセラーや学校医、学校歯科医等、栄養教諭は児童の主治医や主治医のいる病院の管理栄養士というように、連携先が異なるものの、対象とする児童は同じであることから、互いの連携先が情報共有できるようなケース会議を養護教諭・栄養教諭が中核となり共同開催することも想定される。

事例 2

児童生徒の健康問題解決に向けた校内体制構築のために、合同研修でコーディネート能力を向上！

POINT

児童生徒の心身の健康問題の多様化に伴い、問題の解決に向けて、学校全体で組織的に対応していくことが求められている中、養護教諭及び栄養教諭においては、校内体制構築のためのコーディネーターとしての役割を担うことが求められており、コーディネート能力向上のための合同研修を実施した。



取組の背景・目的

これまで養護教諭と栄養教諭に係る研修会等については、例えば、アレルギー対応研修や子供のメンタルヘルス研修など、それぞれの趣旨や目的に応じてテーマごとに開催されてきた。しかし、テーマによって参加者が養護教諭か栄養教諭のいずれかに偏りがちで、養護教諭と栄養教諭が学校における健康教育の中心的な立場として共に資質能力を伸ばし合うという研修にはなっていなかった。また、同じ児童生徒の健康課題に向き合う立場でありながら、養護教諭と栄養教諭の連携が十分にとれていない場合もあった。

今後の学校現場における健康教育の更なる充実を図るためには、養護教諭及び栄養教諭には、連携して校内での推進体制を構築することが求められており、そのためには、これまでの研修体系を見直し、養護教諭と栄養教諭に共通して求められている資質能力の向上を目指す研修会を合同で開催するなど、互いの職務や求められている役割等についての理解を深める場や共に学び合う場が必要であった。

取組の様子

両職種に求められるコーディネート能力の向上に向けた合同研修

養護教諭と栄養教諭については、学校現場における健康教育の推進を図る中核として、教職員間の連携や保護者や学校医等の外部の専門機関等との連絡調整など、コーディネーターとしての役割が期待されている。そこで、本研修では学校現場で両職種に求められているコーディネート能力の向上を目的として講演及び演習が養護教諭及び栄養教諭に対して合同で行われた。

具体的には、どのようにしたら相手に伝わりやすいかといったコミュニケーション方法を学び、ペアワークで実践したり、患者対応が劇的に改善した病院を例に、どのように職員間のコミュニケーションが改善され、職場環境が変わっていったかという、実例をもとにした講義を受けた。

その上で、保護者から電話で相談があった場合や、職員会議において提案をする場合、校外の学校医に情報共有する場合など、実際に起こり得る対人関係上の場面を想定し、場面場面でどのように相手と信頼関係を築いていくか、そのためにどのようなコミュニケーション方法が適切かということをロールプレイング等を通して実践的に学んだ。



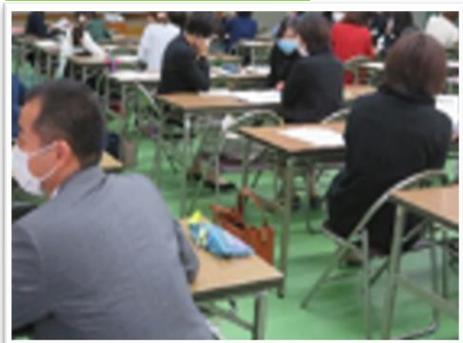
研修の成果



健康教育の充実に向けた研修内容及び研修体系の見直し

今回、新たな試みとして両職種を一堂に集め、コーディネート能力という共通して求められる能力の向上に向けた研修会を合同で開催したことで、健康教育の推進においては校内の全教職員を巻き込んで体制を構築し、自分たちが人をつなぐコーディネーターとしての役割を担っていく必要があるという意識の向上につながった。参加者からは、「コミュニケーションにおいては、相手を変えるのではなく、自らが変わることが重要だ」という話があったが、自分はこれまで他の教職員から声をかけてくれるのを待っていて連携のしづらさを感じていた。しかし、信頼関係を築く上では待ちの姿勢を変えて、こちらから働きかけていこうという意識の変化があった。」という感想が上がった。

連携の成果



合同研修が養護教諭と栄養教諭の交流の場となり、健康教育に関する情報の共有が進んだ

合同研修においては、お互いの専門的知見から異職種ならではの視点による意見交換がされ、参加者同士の学び合いが深まるなど、より研修の効果が上がった。

また、研修の演習を通して、参加者同士がお互いの職種や学校における役割等について交流を深める良い機会となった。

特に複数校を兼務している栄養教諭は、各学校の養護教諭と会う機会が少なく、必ずしも連携が取れていると言えない場合もあり、この研修をきっかけとして、日頃から相談ができるような関係性を築くことができ、それぞれが有している児童生徒の健康に関わる情報の共有などが進み、健康面に課題を抱える児童生徒に対する指導の充実につながった。

今後の展開に対する期待(協力者会議)

- 今後は健康教育の推進に向けて、コーディネート能力以外にも養護教諭及び栄養教諭に共通した資質能力の育成を目的とした研修を計画し、合同実施を視野に入れた新たな研修体系の構築が期待される。
- また、養護教諭と栄養教諭の合同研修のみならず、他の教職員も含めてすべての教職員が一体となった学び合いの場で、他の教諭等とお互いの職務やその専門性について理解し合うことや、学校経営等に関する知見を得ることを通して、校内における多職種連携や養護教諭及び栄養教諭自身のキャリアパスの多様化につながることが期待される。
- 健康教育に関連する内容を各教科等を通じて取り組む際、どの授業の時間で実施するかについて、誰にいつ相談すればよいのか分からず、課題と感じている養護教諭と栄養教諭が多い。養護教諭・栄養教諭ともに、健康教育推進のための指導時間をしっかりと確保し、組織的に対応するための校内体制を構築するためには、年度当初に作成する年間指導計画に健康教育を位置付けることが必須である。その上で計画に位置付けた健康教育についてのカリキュラム・マネジメントを、養護教諭と栄養教諭が連携し各教科等の担当とともに行っていくことで、学校組織としての健康教育の目的の共通理解につながり、学校全体における指導の充実が期待される。